群馬県 住宅政策課 御中

分析レポート

「私たちでも入居できる？」子育て世帯や若い世代が求める
県営住宅の情報や取り組みについて、教えてください。



PoliPoli Gov

2026年10月30日

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

意見募集の概要・実施結果

調査方法：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ

意見募集のテーマ

「私たちでも入居できる？」子育て世帯や若い世代が求める県営住宅の情報や取り組みについて、教えてください。

調査期間：2026/8/13〜2026/9/30（49日間）

調査地域：全国オンライン

ページ閲覧数：6,043

総コメントユーザー数：119人（*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）

総コメント投稿数：131件(*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出)

回答者の属性（必須回答）：

世帯の構成

- 単身世帯
- 18歳未満の子どもを扶養する世帯
- 39歳以下の夫婦世帯（婚姻予定・事実婚・
- パートナーシップ制度利用者を含む）
- その他

選択的設問

同居している子どもの年代（複数選択可）

- 未就学
- 小学生
- 中学生
- 高校生
- 大学生等
- 就職又は無職
- 子どもはいない

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

意見募集の概要・実施結果

県営住宅の入居要件について
どの程度知っていますか

- よく知っている
- ある程度知っている
- 今回初めて知った

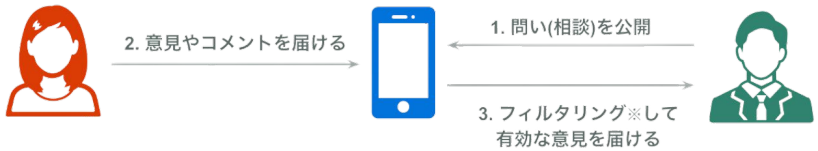
令和8年4月から県営住宅の
入居要件が緩和されたことを
知っていましたか

- 知っている
- 聞いたことがある
- 知らない

県営住宅への入居を
検討したことがありますか

- 現在検討している
- 過去に検討したことがある
- 検討したことはない

意見募集の仕組み



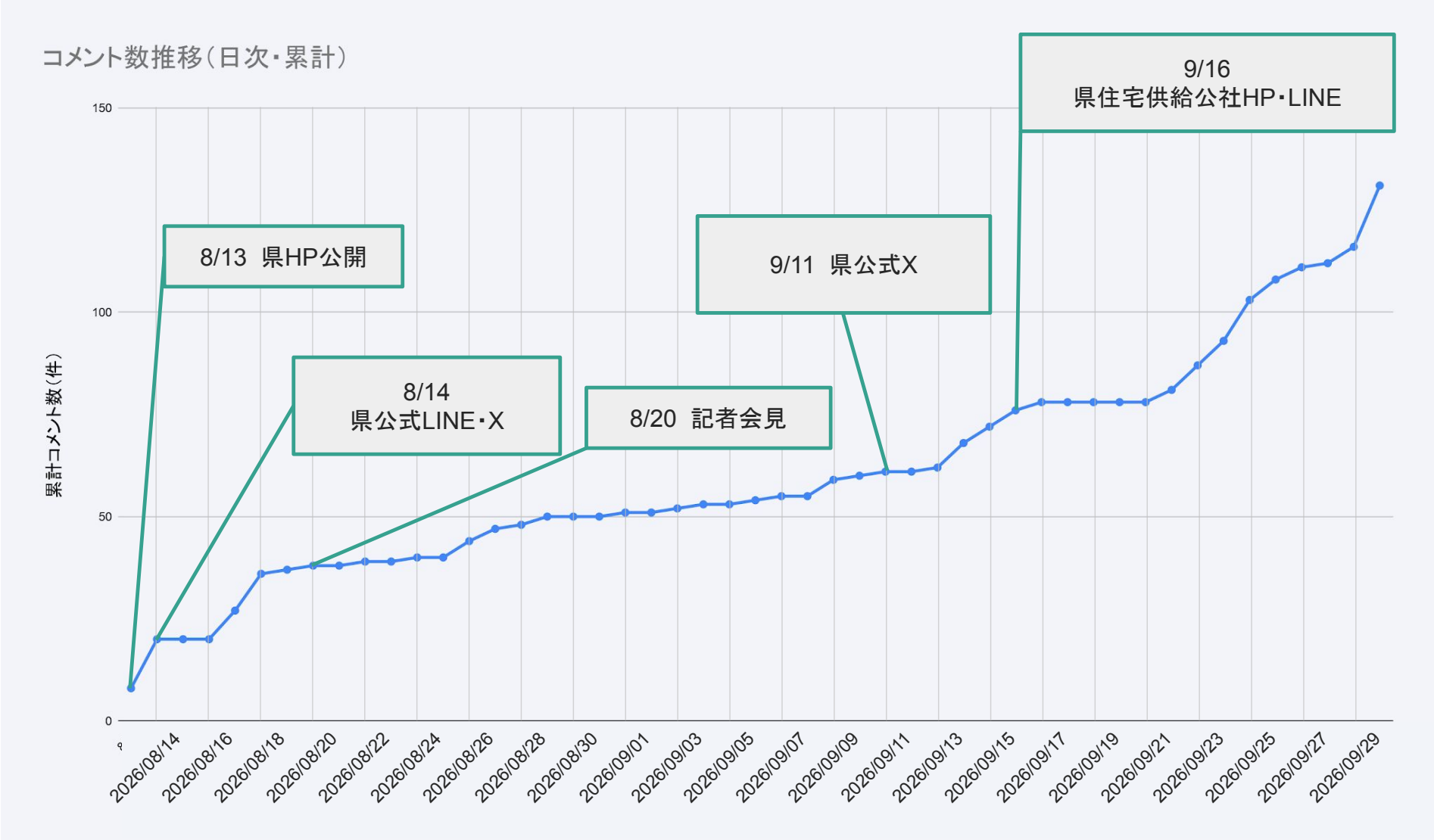
※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが
攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



URL：https://polipoli-gov.com/issues/n1NX8L4RUB8AMbaGe1vX

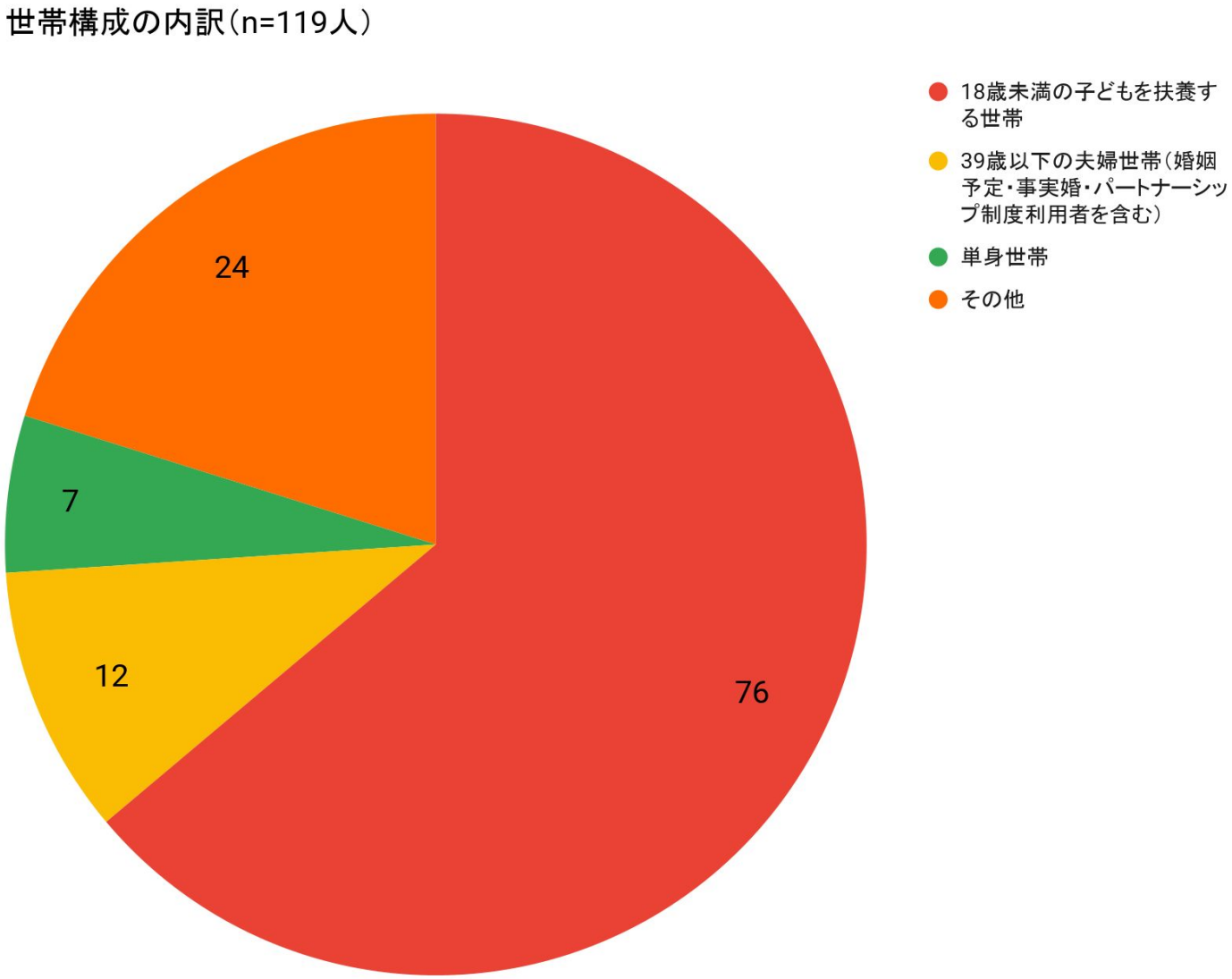
© PoliPoli, Inc. All rights reserved

コメント数推移



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

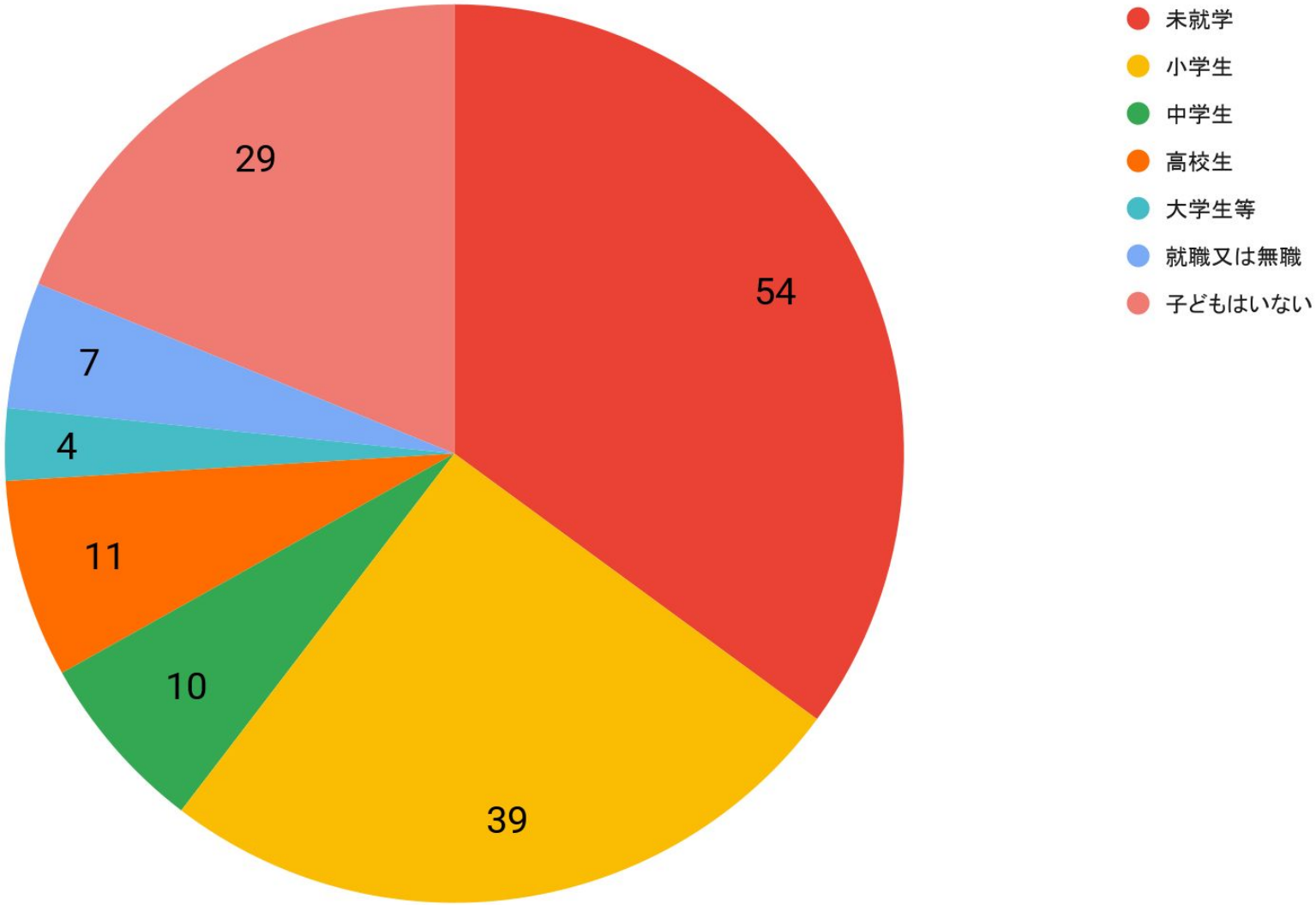
全コメントにおけるユーザー属性｜世帯構成



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

選択的設問｜子どもの年代

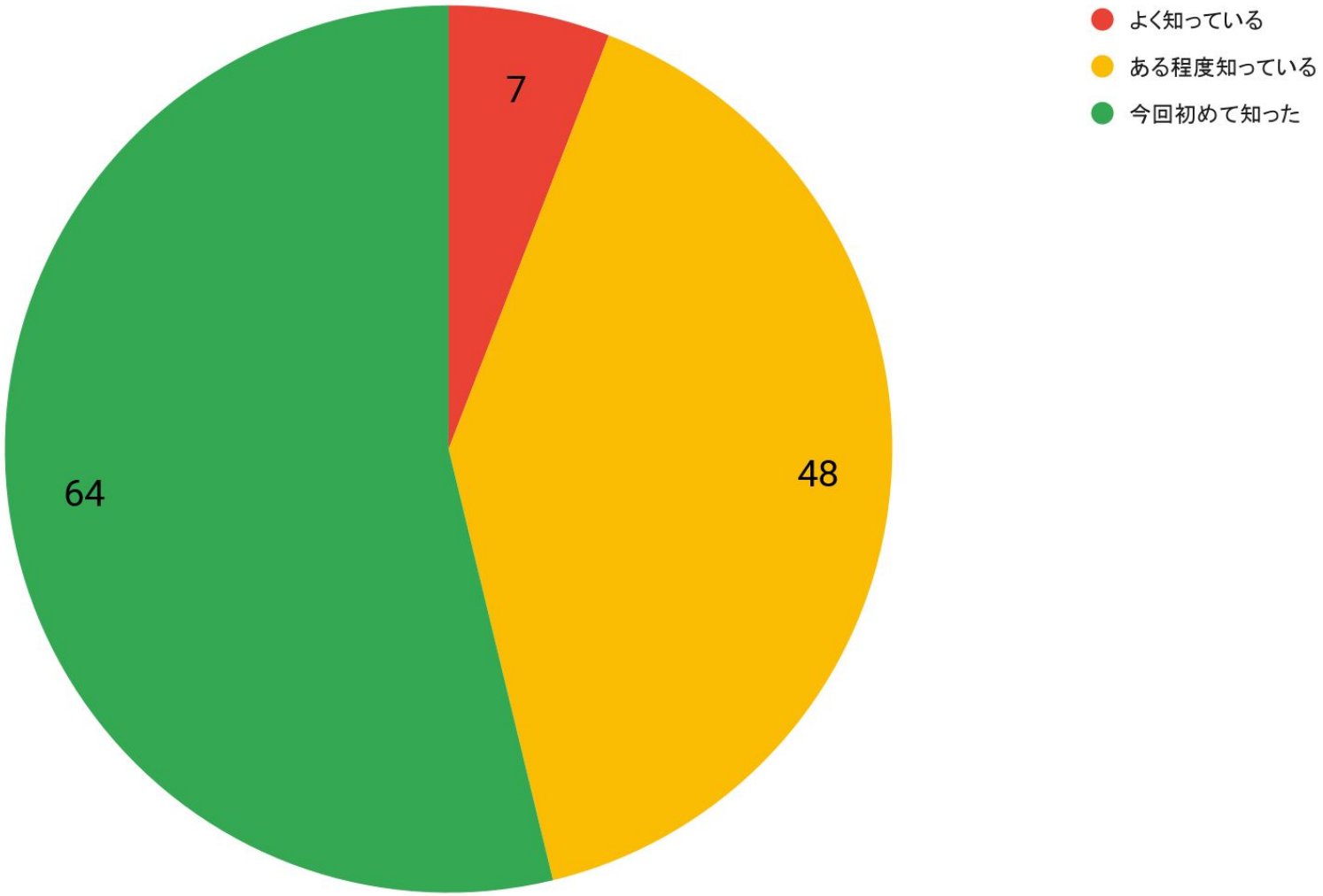
同居している子どもの年代の内訳（延べ件数=154件）



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

選択的設問｜入居要件の認知度

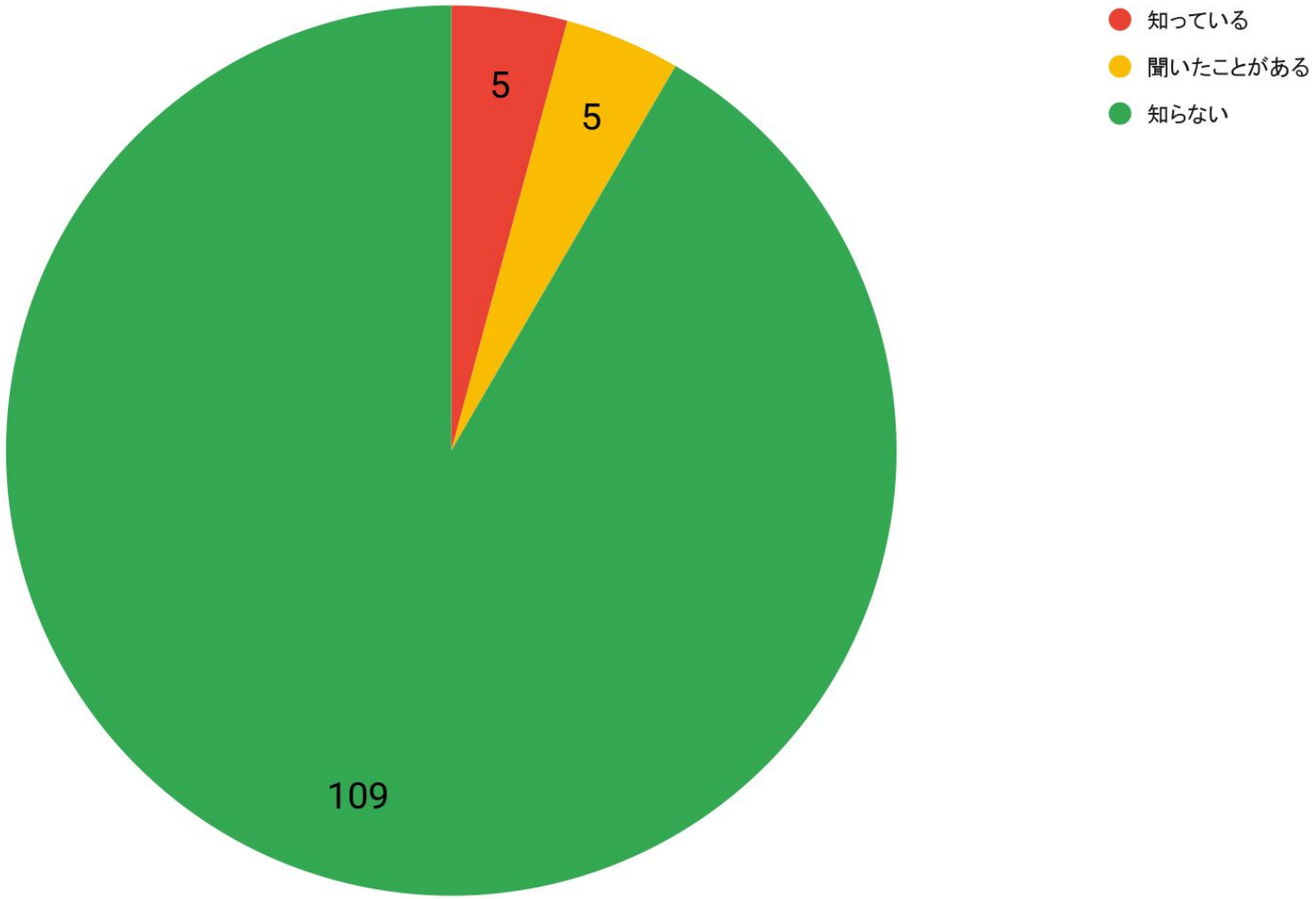
入居要件の認知度の内訳（n=119人）



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

選択的設問｜入居要件緩和の認知度

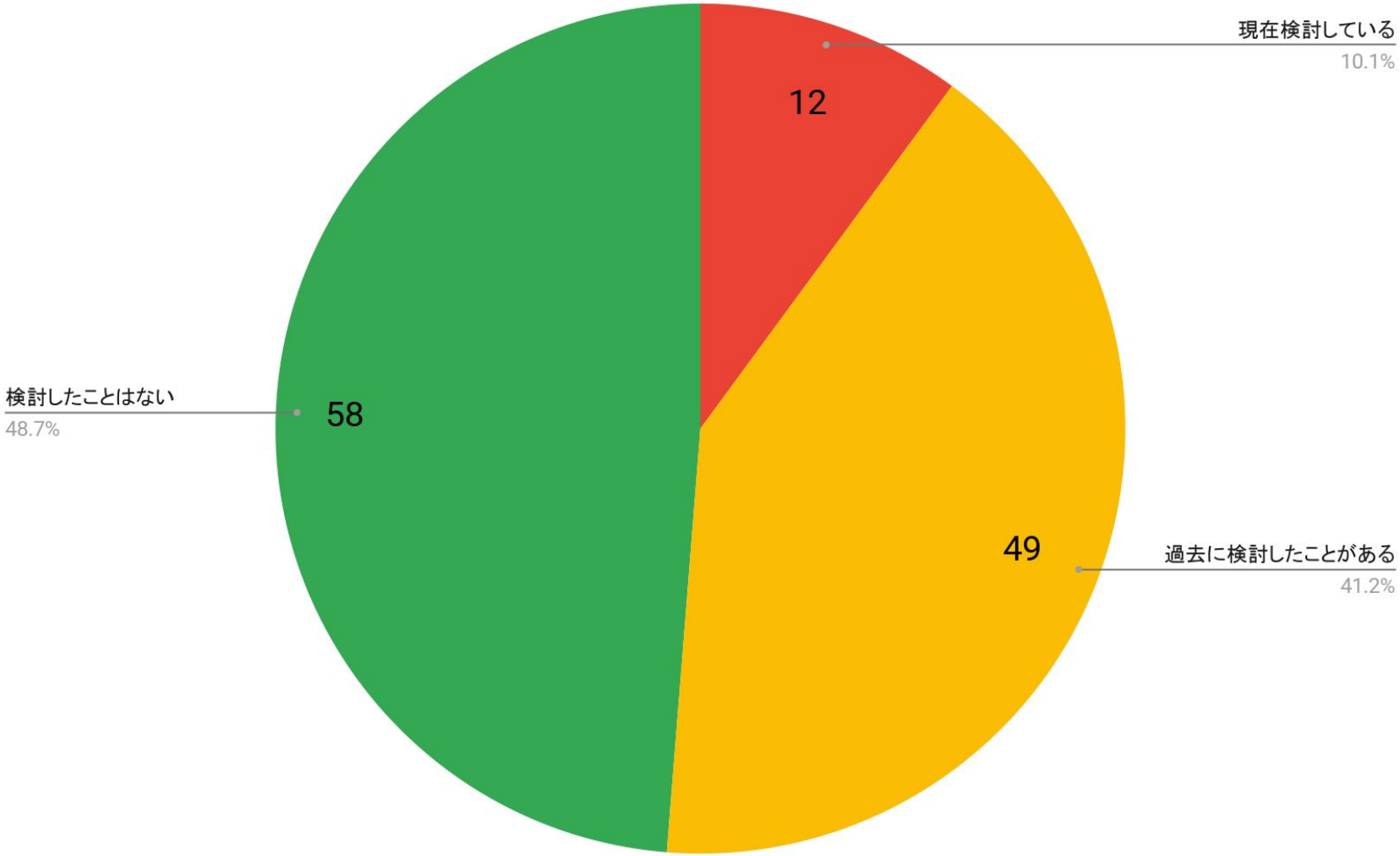
入居要件緩和の認知度の内訳（n=119人）



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

選択的設問｜入居検討状況

県営住宅への入居検討状況の内訳（n=119人）



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

属性的設問：世帯構成×子どもの年代

子育て世帯76人では、未就学児と同居する人が 48人で最多となり、次いで小学生と同居する人が 38人でした。子どもの年代は複数回答のため、同じ人を複数の選択肢に計上しています。 39歳以下の夫婦世帯やその他の投稿者からも子どもがいるという回答を得ました。全 119人の延べ回答数は154件です。

世帯構成 ＼ 子どもの年代	未就学	小学生	中学生	高校生	大学生等	就職又は無職	子どもはいない	回答人数 n（人）	延べ回答数（件）
18歳未満の子どもを扶養する世帯	48	38	10	9	2	0	0	76	107
39歳以下の夫婦世帯（婚姻予定等を含む）	5	1	0	0	0	0	7	12	13
単身世帯	0	0	0	0	0	0	7	7	7
その他	1	0	0	2	2	7	15	24	27
選択肢別合計／延べ件数	54	39	10	11	4	7	29	119	154

※集計元：ユニークユーザー119人（1人1行）。各セルは人数。子どもの年代は複数回答、延べ回答数は件数。
※色は各表内の実数に対応（白＝0、青が濃いほど多い）。n・合計は色付け対象外。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

属性的設問：世帯構成×入居要件の認知度

子育て世帯76人のうち、入居要件を「今回初めて知った」が 41人で最多となりました。次いで、「ある程度知っている」は 29人でした。39歳以下の夫婦世帯でも12人中8人が「今回初めて知った」と回答しています。今回の意見募集を通して、初めて知ったという層が若い世帯や子育て世帯で最多となりました。

世帯構成 ＼ 入居要件の認知度	よく知っている	ある程度知っている	今回初めて知った	回答人数 n（人）
18歳未満の子どもを扶養する世帯	6	29	41	76
39歳以下の夫婦世帯（婚姻予定等を含む）	0	4	8	12
単身世帯	0	4	3	7
その他	1	11	12	24
選択肢別合計（人）	7	48	64	119

※集計元：ユニークユーザー119人（1人1行）。各セルは人数。単一回答。
※色は各表内の実数に対応（白＝0、青が濃いほど多い）。n・合計は色付け対象外。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

属性的設問：世帯構成×要件緩和の認知度

要件緩和を「知らない」は全 119人中109人でした。世帯別では、子育て世帯 76人中71人、39歳以下の夫婦世帯 12人中11人で、いずれの世帯構成でも「知らない」が最多となっています。要件緩和の情報が今後入居を促進したい若い世帯や子育て世帯に届ききっていないという可能性があるという結果を得ることができました。

世帯構成 ＼ 要件緩和の認知度	知っている	聞いたことがある	知らない	回答人数 n（人）
18歳未満の子どもを扶養する世帯	3	2	71	76
39歳以下の夫婦世帯（婚姻予定等を含む）	1	0	11	12
単身世帯	0	1	6	7
その他	1	2	21	24
選択肢別合計（人）	5	5	109	119

※集計元：ユニークユーザー119人（1人1行）。各セルは人数。単一回答。
※色は各表内の実数に対応（白＝0、青が濃いほど多い）。n・合計は色付け対象外。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

属性的設問：世帯構成×入居検討状況

子育て世帯76人では「検討したことはない」が 39人、「過去に検討したことがある」が 29人、「現在検討している」が 8人となり、過去又は現在に検討したことがある人は 37人でした。39歳以下の世帯では「検討したことはない」が 7人、「過去に検討したことがある」が5人で検討中の世帯はいませんでした。

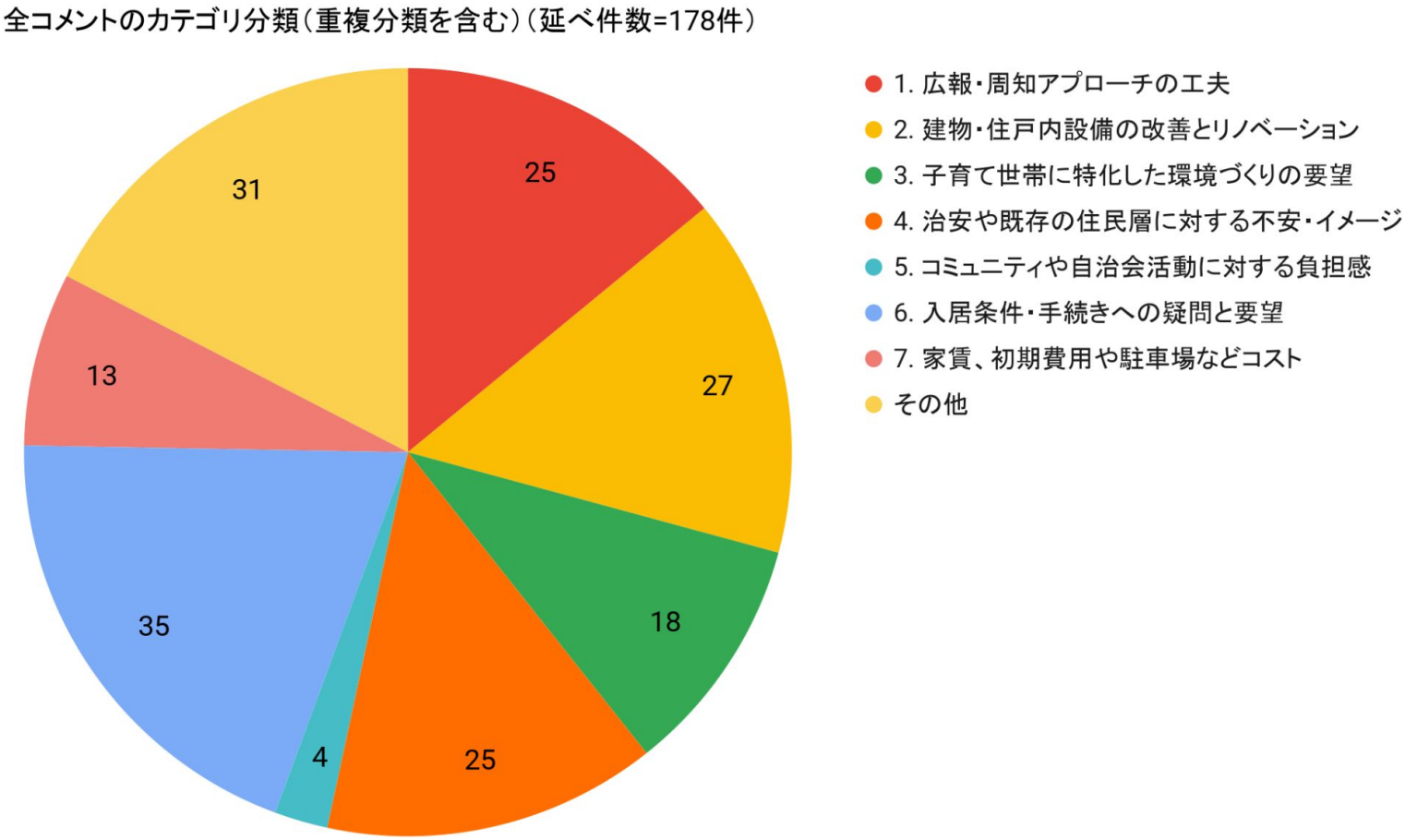
世帯構成 ＼ 入居検討状況	現在検討している	過去に検討したことがある	検討したことはない	回答人数 n（人）
18歳未満の子どもを扶養する世帯	8	29	39	76
39歳以下の夫婦世帯（婚姻予定等を含む）	0	5	7	12
単身世帯	0	4	3	7
その他	4	11	9	24
選択肢別合計（人）	12	49	58	119

※集計元：ユニークユーザー119人（1人1行）。各セルは人数。単一回答。
※色は各表内の実数に対応（白＝0、青が濃いほど多い）。n・合計は色付け対象外。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全コメントのカテゴリ分類

今回の意見募集では「若い世代や子育て世帯が県営住宅に入居するために必要な情報や取り組み」をテーマにコメントをいただいた。いただいたコメントを集計・分析したところ以下の8つのカテゴリに分類することができた。「入居条件・手続きへの疑問と要望」が35件で最多となり、テーマとは直接関係のないコメントである「その他」を除くと、建物・住戸内設備の改善とリノベーションが27件、「広報・周知アプローチの工夫」「治安や既存の住民層に対する不安・イメージ」が25件で同数となった。



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全コメントのカテゴリ分類

カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※参考語。分類は提供Excelの結果に準拠。
広報・周知アプローチの工夫	県営住宅や入居要件の緩和を知ってもらう方法、実際の暮らしや魅力の伝え方、空き情報の発信、入居要件・家賃の分かりやすい案内に関する意見。	SNS、LINE、YouTube、動画、広報、周知、PR、チラシ、写真、ルームツアー、窓口、早見表など
建物・住戸内設備の改善とリノベーション	建物の古さや暗い印象、住戸内の水回り・内装の改善、畳からフローリングへの変更、リノベーションや一定範囲のDIYの許可に関する意見。	古い、薄暗い、設備、リノベーション、リフォーム、DIY、水回り、風呂、畳、フローリング、内装、外観など
子育て世帯に特化した環境づくりの要望	子どもの足音や声に配慮した住環境、子育て世帯向けの棟・エリア、遊び場や託児・学習スペースなど、子育てしやすい環境に関する意見。	騒音、足音、防音、子育て、専用棟、遊具、公園、託児、学習、居場所、交流など

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全コメントのカテゴリ分類

カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※参考語。分類は提供Excelの結果に準拠。
治安や既存の住民層に対する不安・イメージ	治安や住民間のトラブル、生活ルール・マナーへの不安、住民層に対するイメージや偏見、そのイメージの改善に関する意見。回答者の認識として整理。	治安、トラブル、低所得、高齢者、外国人、偏見、モラル、ごみ出し、怖い、たまり場など
コミュニティや自治会活動に対する負担感	町内会・自治会の役員や清掃・草取り等の負担、近隣との付き合いに対する不安、入居前の交流やお試し居住など、関係づくりに関する意見。	町内会、自治会、行事、草取り、掃除、清掃、近所、隣人、人間関係、イベント、お試し、レンタルなど
入居条件・手続きへの疑問と要望	収入要件や申込・抽選等の手続き、保証人・緊急連絡先の確保、単身・障害・別居中などの入居可否、ペット飼育等の条件に関する疑問や要望。	手続き、抽選、条件、要件、収入、年収、保証人、緊急連絡先、単身、障害、離婚、別居、ペットなど

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全コメントのカテゴリ分類

カテゴリ名	カテゴリの説明	メインキーワード ※参考語。分類は提供Excelの結果に準拠。
家賃、初期費用や駐車場などコスト	家賃の水準や変動、敷金・設備準備等の初期費用、共益費・維持費、駐車場料金や来客・ヘルパー用駐車場の不足など、住居費用や駐車環境に関する意見。	家賃、初期費用、敷金、駐車場、共益費、維持費、金銭的、車など
その他	テーマとは直接関係しないコメント。制度への感想・関心、個別の質問、短い回答などを含む。	制度への感想、関心・検討意向、個別の質問、短い回答など

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

クロス分析と考察

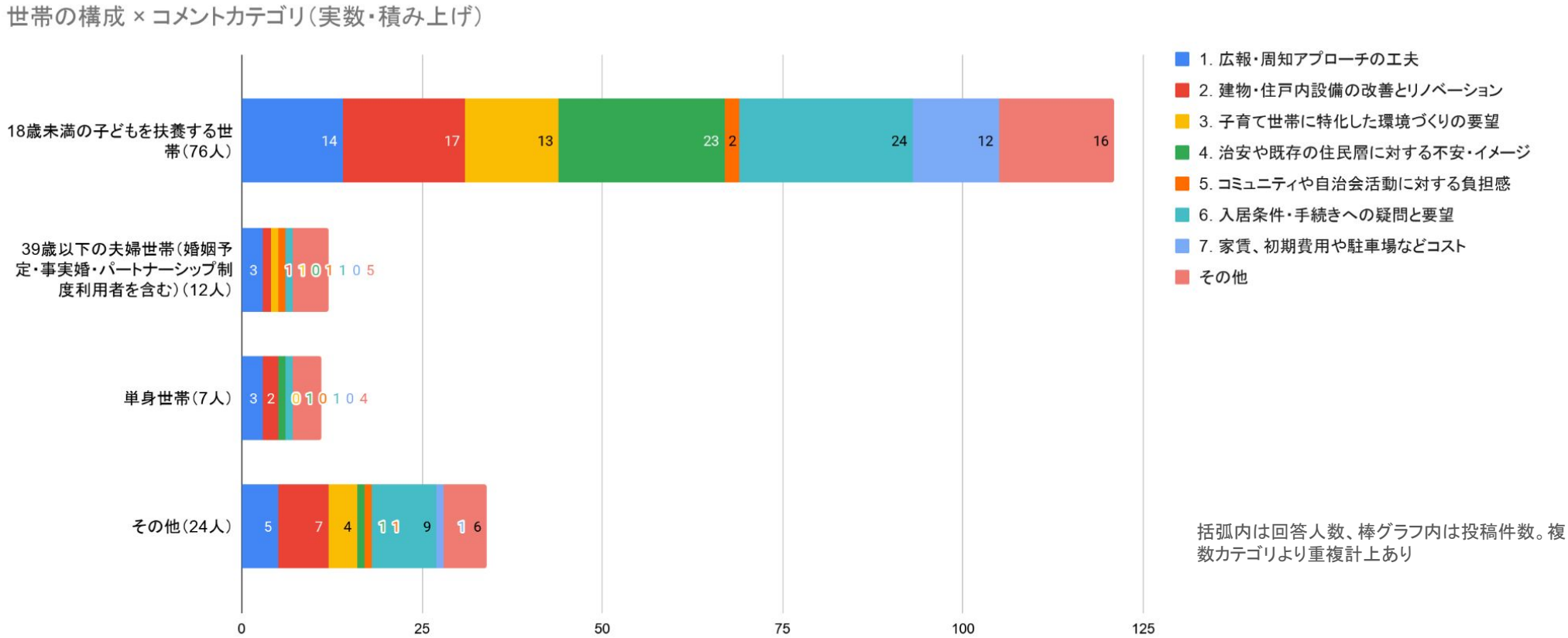
© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの分析｜世帯の構成×カテゴリ分類

18歳未満の子どもを扶養する世帯では、「入居条件・手続きへの疑問と要望」が24件、「治安や既存の住民層に対する不安・イメージ」が23件と多く、次いで「建物・住戸内設備の改善」が17件となっています。「その他」カテゴリを除くと、39歳以下の夫婦世帯と単身世帯では「広報・周知」が各3件、世帯構成「その他」では「入居条件・手続き」が9件で最多でした。

■考察

子育て世帯に向けては、入居条件や手続き方法の説明に加え、実際の住環境や安心して暮らせるかを判断できる情報を届けることが必要と考えられます。



括弧内は回答人数、棒グラフ内は投稿件数。複数カテゴリより重複計上あり

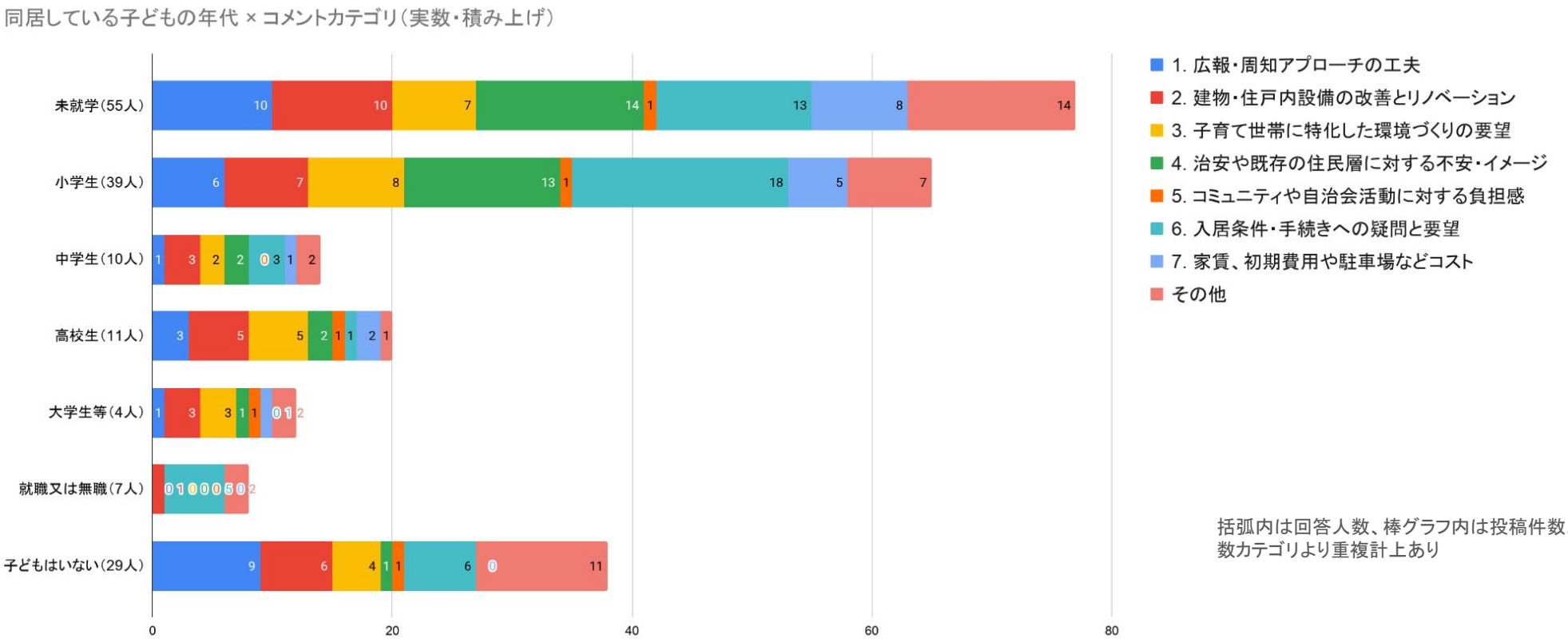
© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの分析｜子どもの年代×カテゴリ分類

未就学児と同居する層では「治安や既存の住民層への不安」が14件、小学生の層でも13件と上位でした。また、中学生以降は集計対象が少ないため参考とはなりますが、高校生・大学生等の層では、建物・住戸内設備の改善や子育て環境への要望が比較的多く見られます。

■考察

小さな子どもがいる家庭にとって住環境の安心感が重要であることがうかがえます。また、外国人住民に言及するコメントも複数あり、住民構成へのイメージや夜間の共用空間の利用に対する懸念が見られます。これらは投稿者の認識であり、実際の治安とは区別しつつ、暮らしの実態や生活ルールを具体的に伝えることが重要です。



括弧内は回答人数、棒グラフ内は投稿件数。複数カテゴリより重複計上あり

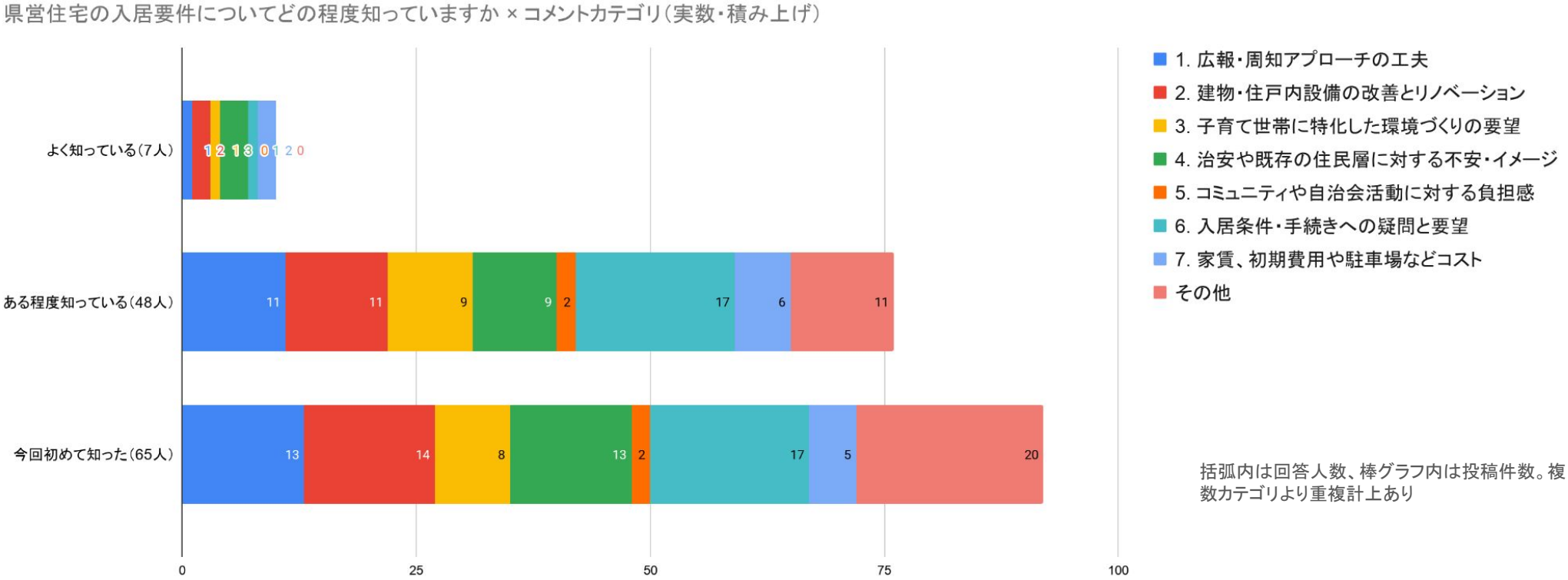
© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの分析｜入居要件の認知度×カテゴリ分類

入居要件を「今回初めて知った」と回答した65人から投稿が寄せられ最多となりました。この層では「その他」を除くと、「入居条件・手続き」が17件で最多となり、「建物・住戸内設備の改善」が14件、「広報・周知」と「治安への不安」が各13件で続きました。「ある程度知っている」層もおおむね同様の構成となりました。

■考察

これまで制度を十分に知らなかった層の声が集まったことは、今後の県営住宅の改善を考える上で大きな意味があると考えます。まずは入居条件に関する疑問や要望に応えつつ、建物のリノベーションや広報施策も検討していくことが、子育て世帯等の住まいの選択肢として県営住宅が選ばれる上で重要と考えられます。



© PoliPoli, Inc. All rights reserved

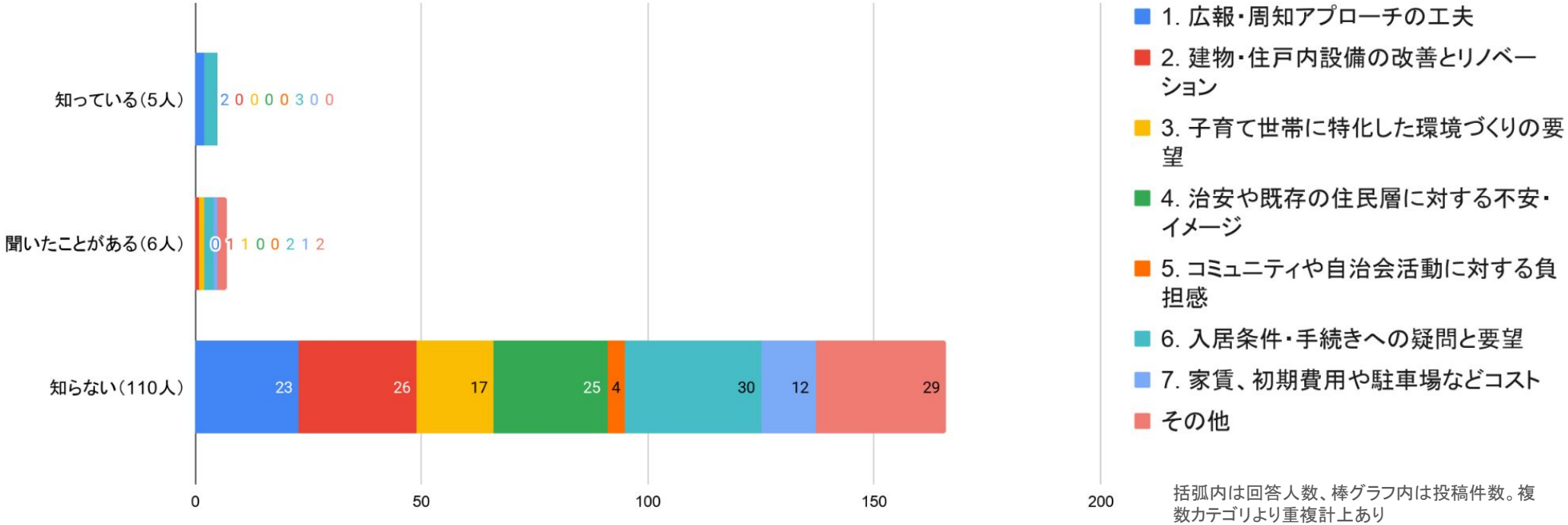
カテゴリごとの分析｜要件緩和の認知度×カテゴリ分類

要件緩和を「知らない」と回答した110人から120件の投稿があり、全131件の約92%を占めました。複数カテゴリへの分類を含む延べ分類件数は166件でした。この層では「その他」を除くと、「入居条件・手続き」が30件、「建物・住戸内設備の改善」が26件、「治安への不安」が25件と上位に並びます。

■考察

要件緩和について、「知らない」という回答が多く得られましたが、今回の意見募集では県営住宅をよく知らない層からの回答が多く集まった可能性もあり、この結果だけで要件緩和に対する広報施策が不足していると判断することはできません。また、これまで県営住宅の情報に接する機会や関心が少なかった可能性のある層も、制度の利用条件や住環境に関心を寄せていることが分かります。こうした疑問や不安に応える情報が、県営住宅が選択肢としてあがるきっかけになるのではないかと考えます。

令和8年4月から県営住宅の入居要件が緩和されたことを知っていましたか × コメントカテゴリ（実数・積み上げ）



括弧内は回答人数、棒グラフ内は投稿件数。複数カテゴリより重複計上あり

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

カテゴリごとの分析｜入居検討経験×カテゴリ分類

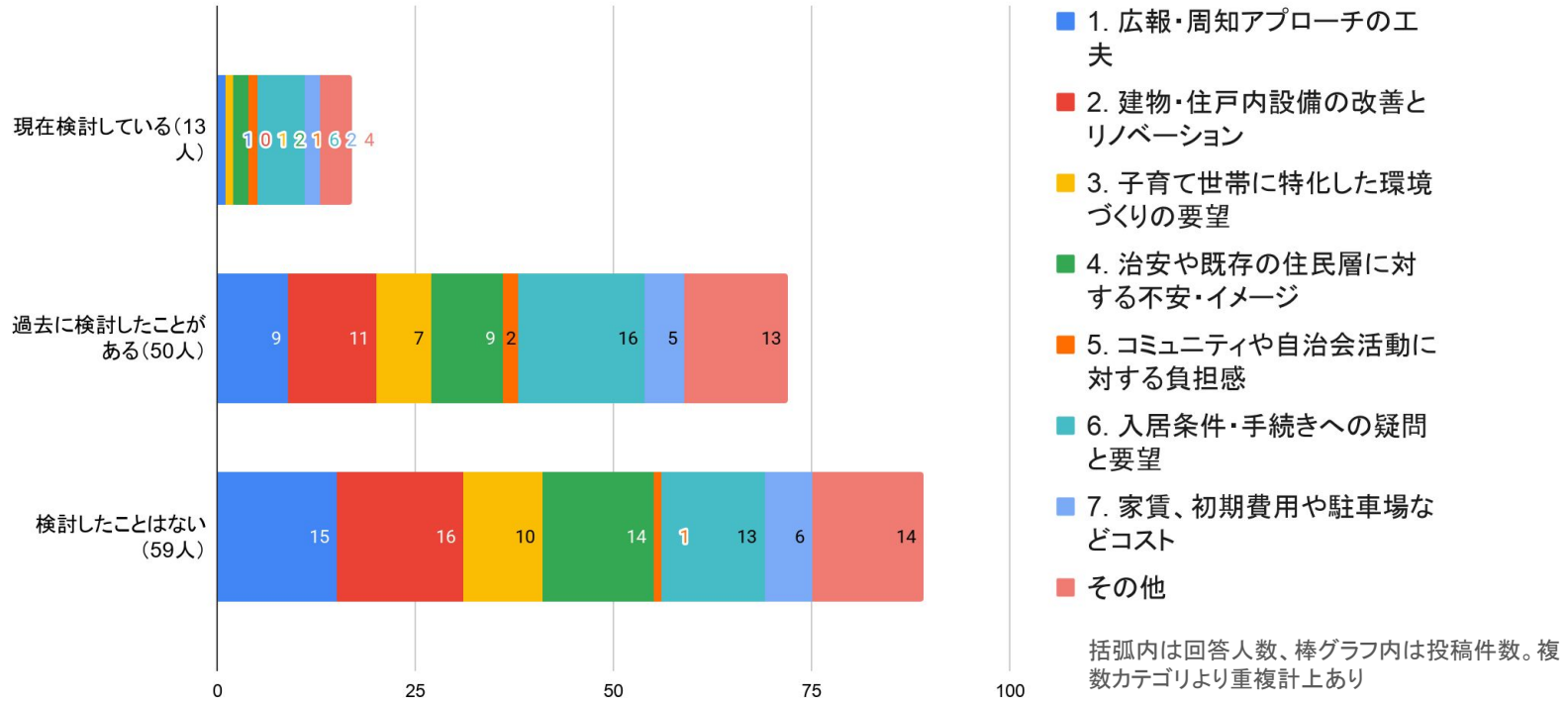
過去に入居を検討した層では、「入居条件・手続きへの疑問と要望」が16件で最多となりました。また、現在検討している層でも同カテゴリが6件で最多、入居を検討したことがない層では13件となりました。なお、入居を検討したことがない層では、「建物・住戸内設備の改善とリノベーション」が16件で最多、次いで「広報・周知アプローチの工夫」が15件となりました。

■考察

入居を具体的に考える段階では、条件や手続きが重要な関心事項となっていることがうかがえます。

寄せられたコメントの中には、条件の分かりにくさや申込時の負担などに関する声が複数あり、対応可能な点を整理して実行することが、入居希望者の増加につながる可能性があります。その他の具体的なカテゴリも、建物の改善、広報、治安への不安が比較的多く、他のクロス集計と大きく異なる傾向は見られませんでした。制度面と住環境の両方から働きかけることが重要と考えられます。

県営住宅への入居を検討したことがありますか × コメントカテゴリ（実数・積み上げ）



括弧内は回答人数、棒グラフ内は投稿件数。複数カテゴリより重複計上あり

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

代表的なコメント

※読みやすさを考慮し、運営側で一部内容を抜粋・編集しております。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

広報・周知アプローチの工夫

- 制度自体知らなかったので地元のスーパーや保育園など、日々の暮らしに近い所での案内があると地域の皆さんの理解度が深まり、活用を増えると思います。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学・小学生）
- LINE通知などでもっと頻繁に入居募集状況を発信してくれると助かります。LINEの群馬県からの通知は結構見ているため
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：高校生）
- 婚姻届や出生届を提出するタイミングで市町村の窓口から案内資料を渡してもらうのはいかがか？
（39歳以下の夫婦世帯／子：子どもはいない）
- 住宅供給公社のHPに書いてある「公営住宅法施行令に定める基準以下」では、一般の方はわかりにくい。わかりやすい早見表などを掲載して欲しい。または、世帯年収などを入力して入所要件や家賃を判定するページなどがあればよいと思った。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- どんな部屋があるのかルームツアーのように紹介したり、入居者のコメントなど使えるものは使っていく姿勢が大事だと感じた。
（その他／子：子どもはいない）
- 県営住宅をより知ってもらうために、内覧といったもの以外にも、県営住宅周辺で行うような地域イベントを積極的に開催していただくのもいいかと思っています。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学・小学生）
- 県営住宅の認知度が低いと思う。各市町村役場の市民課窓口に来庁者が自由に手に取れる案内チラシを設置したり、民間の集合住宅にポスティングするなどし周知を図ってみてはどうでしょうか。
（その他／子：子どもはいない）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

建物・住戸内設備の改善とリノベーション

- 最近はレトロブームなので、県営住宅のレトロさを残しつつ、リノベーションも行い、「キレイなのにどこか懐かしさもある」といったコンセプトのお部屋だと、若者の心に刺さるかと思います。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学）
- なので古い県営住宅をリノベーションしたら良いと思います。そうしたら子育て世代も利用すると方が増えると思います。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：高校生・大学生等）
- 以前、友人が入居を検討したものの、お子さんに重度のアレルギーと喘息があるので諦めたと話していました〔中略〕世帯によって事情が異なりますが、共働きの方が多いことを考えると、掃除がしやすいフローリングが助かるのかもしれません
（その他／子：子どもはいない）
- 無印良品とコラボしてリノベーションしていただいたら、入居したい人が増えるのではないかと思います。
（その他／子：子どもはいない）
- 若者世帯を呼び込むために、これから住む人と内装改修の意見交換などをして、要望を聞き改修を行い、そこに住むことができるようにする。
（39歳以下の夫婦世帯／子：未就学）
- お風呂について。ユニットのお風呂を増やしてほしい。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：中学生）
- 県営住宅の入居を増やすためには、例えば入居者のDIYを一定程度認めるなどルールを緩和したり、SNSを活用して入居の魅力を発信することも有効だと感じます。
（単身世帯／子：子どもはいない）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

子育て世帯に特化した環境づくりの要望

- 検討したことはあるのですが、子どもが将来大きくなって、暴れたりして下の階の方に迷惑かけてご近所トラブルなんかになったらたまらないと思い断念しました。静かに暮らしてる方が多いイメージがあるので子育て世帯が入居していいのか不安があります。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学）
- また、住宅だけでなく、団地内の空き住戸や集会所等を活用し、子どもの居場所、学習スペース、コワーキングスペース、地域交流の場などを設けることで、「家賃が安い住宅」から「子育てしやすい地域」へとイメージを変えていくことも重要です。
（その他／子：高校生・大学生等）
- 県営住宅は多くの育児世代が入居するため、敷地内や近隣に育児施設（託児スペースなど）が併設されると大変助かります。〔中略〕地元の高校、大学生やボランティア団体と連携した運用を取り入れることで、地域全体で子どもを育てる持続可能な取り組みとなり、住宅の魅力向上にもつながると考えます。
（39歳以下の夫婦世帯／子：子どもはいない）
- ある程度の足音が響かない構造が住んでてもストレス感じなく子育てができます。当時住みはじめの頃、子供が小さい頃に下の階の老人に足音がうるさいと文句を言われた事があるので。子育てもしやすい環境があれば本当にありがたい。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- 県営住宅地を作って、そこを子育て世帯限定にすることを提案します。子供たちも仲良くなりやすかったり、親同士も情報交換がしやすくてメリットが多いと考えます。県営住宅地を、学校や公共交通、スーパーなどが近い位置に作ることで、高い需要が見込めると思います。
（その他／子：子どもはいない）
- 子育て世帯の棟が欲しい子供のいない世帯高齢者は特に子供の足音等の騒音トラブルがある
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学・小学生）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

治安や既存の住民層に対する不安・イメージ

- 過去に県営住宅への入居を検討したことがあります。しかし、近隣の県営住宅のごみ置き場では、ごみ出しのルールが十分に守られていない光景を目にし、住民モラルに不安を感じたため、最終的には民間の賃貸住宅を借りることにしました。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- また、「県営住宅に住む＝経済的に厳しい家庭」というイメージを少し変えていくことも大事だと思います。子育て期間中だけ家賃の安い県営住宅に住んで、その分を教育費や貯蓄に回す、という使い方も十分合理的だと思います。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学）
- 偏見ではあるが、低所得者向け＝治安が悪いというイメージがある。そういったイメージを払拭するための広報（実際の居住者の声を紹介するなど）が必要ではないかと感じる。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- 県営住宅というとセキュリティー面などでよくない話も聞き子どもがいると少々不安。また、建物の老朽化についても気になる。調べたことがなかったので県内の県営住宅について調べてみようかな…と思った。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- 県営住宅は、治安が悪かったり経済的に困難な人が暮らすというイメージがまだ残っていると感じるため、イメージアップの取り組みが大切であると思う。
（単身世帯／子：子どもはいない）
- 基本的には民間の賃貸がファーストオプションにはなると思うが、安い家賃で住めるのはすごい魅力的だと思う。子育て世帯が多いと同じ境遇の人がいて嬉しいし治安的にも安心できる。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

コミュニティや自治会活動に対する負担感

- 県営住宅に住んでいます。若い世帯が県営住宅に入りずらい理由、私の場合勧めにくい理由として、町内会の仕事が多いことがひとつです。85歳以上、75歳以上は役の免除や敬老の日の贈答品もありますが、若い世帯に仕事は回ってきやすいが、ひとり親や小さい子供を育てていても免除やねぎらいなどはありません。なので子供が小さくて団地の仕事中の預け先がないご家庭には勧められません。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- 県営住宅はご近所さんとの横の繋がりが大事と聞きますが、極力交流をしたくないです。静かにただ暮らしたいです。草取りや掃除などの行事もなくなるといいと思います。
（その他／子：子どもはいない）
- 月末の清掃に出てこないなどトラブルも多い〔中略〕入居者もどんどん減り施設の点検、植栽の手入れなど資金が回らなくなっている。そういった点を今後どう改善して新規の入居者を募集するのか、いま一度よく考えてほしい。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：高校生・大学生等）
- 県営住宅がある学校は荒れがちで、隣人ガチャ感が強いので、入居を検討することはない。
（39歳以下の夫婦世帯／子：未就学）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

入居条件・手続きへの疑問と要望

- 一方で、よほどの年収帯でないと生活が苦しいというのは共通しています。県としてもっともっと県民に寄り添った策を展開するのであれば、もう少し思い切った制限撤廃は検討いただいてもいいと思います。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学・小学生）
- 離婚を前提とした別居を検討しているが、世帯収入が上限を超えていて入居できない離婚が成立するまでは民間のアパートを借りなければならないのがツライ
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：高校生）
- 県内の保証人がいないと入れないという制度をどうにかしてほしい。それがなければ移住者にも入居しやすくなる。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- 連帯保証人は必要ないが、緊急連絡先は必要。また、緊急連絡先については住民票を提出しろと言われたが、身寄りがいない場合ハードルが高すぎる。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- 離婚しひとり親ですが、所得制限が厳しくて入居できませんでした。また、現在猫を飼っているので、入居できません。民間では敷金を倍にして入居可にしているところもありますので、ぜひペット可にしてもらえるとハードルが下がります。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生・中学生）
- 障害がありますが一人で暮らしたいです。県営住宅に入居可能でしょうか?
（その他／子：子どもはいない）
- 住宅に困窮している人のための団地なのに、修繕費用がないようで入居まで時間が掛かると言われました。緩和以前に、予算を組んでから企画してください。保証会社も使えるようにして欲しいです。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

家賃、初期費用や駐車場などコスト

- また、駐車場代が高く感じます。若いご夫婦の場合は群馬という地域柄、2台分必要でしょうが、毎月の負担となるとなかなか辛いです。〔中略〕もう少し駐車場代を下げていただきたいのが1番ですが、難しい場合来客用、ヘルパー用の駐車場台数を増やしていただきたいです。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：小学生）
- 市営住宅に入居しているが網戸やトイレのフタ、風呂の設備を自分で準備しなければならないなど負担が多いし、維持費もかかる。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：高校生・大学生等）
- 建物自体には古さを感じさせる部分もありますが、意外にもリフォームが進んでいます。内装はモダンでシステムキッチンが備わっており、間取りも3LDKと広いうえに家賃がお手頃なのは大きなメリットです。
（その他／子：未就学）
- 住み続けるにあたり、家賃の変動幅はどれくらいあるのか？
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学）
- 写真がないため検討しずらいのと、入居に必要な物が多く金銭的に大変なイメージ
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：高校生）
- 県営住宅の中でもランク分け(家賃の差別化)を図ることで入居したい人の好みや価値観のニーズに合わせた部屋作りができるのかとまた、入居後のリフォームも積極的に採用し、自由度の高さを謳い文句にすることで若い世代や都心部からの移住者を取り込めるのでは？と考える
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学・小学生）
- 賃貸でも家賃高騰で苦しんでいる家庭には非常に良い施策だと思う。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

その他

- 実際に住んでみて感じた県営住宅の魅力は、まず立地と周辺環境の良さです。〔中略〕敷地内には公園が複数あり、すぐ近くにスーパーもあるため日々の生活には困りません。駐車場も1世帯につき1台分がゆったり確保されているのも嬉しいポイントでした。
（その他／子：未就学）
- 初めて入居した際に、お隣さんや近所の方と交流できる機会を設けると良いと思いました。入居した際に、ご近所さんと自己紹介や雑談をすることにより、緊張がほぐれ、より安心に暮らせる事ができるのではないかと思いました。
（その他／子：子どもはいない）
- 住める世帯の幅が広がるのはいい事だと思う。ただし、本当に必要な人が利用できるようにして欲しい。
（39歳以下の夫婦世帯／子：子どもはいない）
- 用件が緩和されたのは大変興味深いです。晩婚で一軒家の購入を戸惑ってしまう夫婦にとって検討する選択肢が増えることは有り難いです。
（39歳以下の夫婦世帯／子：子どもはいない）
- 高崎市内から西の方の田舎の実家に越してきましたが、環境が違いすぎて母子共にストレスが溜まっています。子がもう少し大きくなったらまた戻りたいのですが、その時までに母子家庭が優先的に入居しやすい県営住宅等があれば有難いです。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学・小学生）
- 県営住宅は全く検討していなかったが、ひとつの選択肢として検討したいと感じた。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学・小学生）
- 県営住宅について知る良いきっかけとなりました。今後、知人や友人にもぜひ紹介したいと思います。
（18歳未満の子どもを扶養する世帯／子：未就学・小学生）

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察①

1. 今回の意見募集の目的と投稿者の属性

　今回の意見募集は、令和8年4月の入居要件緩和を踏まえ、子育て世帯や若い世代に県営住宅をより広く知ってもらい、入居につなげるためのアイデアを集めることを目的に実施した。入居者の高齢化・単身化が進む中、家賃や間取り等の魅力の伝え方、利用しやすくする工夫、入居への不安・課題について率直な意見を募り、今後の入居促進や情報発信の参考とすることを目的とした。

施策の主な対象となる世帯から、多くの声が集まった

- 投稿者119人のうち、18歳未満の子どもを扶養する世帯は76人（63.9%）、39歳以下の夫婦世帯は12人（10.1%）で、合計約74%を占めた。
- 子どもの年代は、投稿ベースの複数回答で未就学58件、小学生42件が多く、子育てと住宅選びが結び付いた具体的な声を得ることができた。

制度を知ることが、住まいの選択肢を広げるきっかけになる

- 入居要件を「今回初めて知った」とする投稿は73件、要件緩和を「知らない」とする投稿は120件（91.6%）だった。
- この結果だけで広報不足とは判断できないが、制度を知って検討したいというコメントもあり、これまで接点の少なかった層に情報を届ける余地がある。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察②

2. 入居条件の理解から、申込みへの接続

条件・手続きは、具体的な検討段階での重要な関心事項

- 「入居条件・手続きへの疑問と要望」は全体で35件と最多だった。過去に入居を検討した層で16件、現在検討している層でも6件で最多となった。
- 収入基準や「収入月額」の計算が分からず、自分たちは対象外だろうと検討をやめた経験や、別居・転居など個別の事情に関する質問が寄せられている。

既存の情報を見つけ、次の行動に進めるようにする

- 群馬県住宅供給公社には入居資格判定シミュレーターが既にある。一方、コメントには「年収などを入力して判定するページが欲しい」という声があり、存在を知らない、たどり着けていない可能性がある。

厳格なルールの下でも、必要な世帯の申込みを支える

- 連帯保証人は不要であること、抽選募集と随時募集があることなど、現在の制度がまだ理解されていないことがコメントからうかがえた。
- 公営住宅の公平な運用を前提に、家族構成に応じた収入確認や必要書類の案内を継続し、窓口・電話・文章による相談等から、利用者が次に取るべき行動を具体的に示すことが求められている。AIを活用したチャットボットの導入により、今まで以上に気軽に入居要件の回答や資格の有無を判定できるようなシステムの構築も、申し込みをするか否かの判断において有効な施策であると考えられる。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察③

3. 住環境・設備・家賃以外の費用に対する不安の解消

小さな子どものいる家庭は、近隣との関係や安心感を重視

- 子育て世帯では「条件・手続き」24件に続き、「治安や住民層への不安」23件、「建物・設備の改善」17件となった。未就学児・小学生の層でも治安等への不安が各14件・13件と上位で、子どもの足音や泣き声で周囲に迷惑を掛ける心配もあるという声が寄せられた。
- 外国人住民に言及するコメントも複数あり、住民構成へのイメージに基づく不安と、夜間の共用空間の利用など具体的な生活上の懸念が見られた。これらは投稿者の認識であり、実際の治安やトラブルの発生状況とは区別して考える必要がある。国籍によって一括りにするのではなく、騒音・ごみ出し等の実態を確認し、生活ルールの共有や管理者の対応を具体的に伝えることが、不安の解消につながると考えられる。

設置済みの設備が正しく伝わることで、費用の不安を軽くする

- 群馬県営住宅の浴槽・風呂釜は県が設置しており、給湯設備の方式には棟・住戸ごとの差がある。
- 一方、コメントには「自分で用意する必要がある」と受け止めている声もあり、給湯設備の方式や県・入居者の負担区分を住戸ごとに示すことで、初期費用を実際より大きく見積もる不安を解消できる可能性がある。

家賃の魅力と、入居後まで含めた生活の見通しを伝える

- 安い家賃や広さを評価する一方、初期費用、駐車場代、自治会・清掃活動への負担感もある。
- 家賃以外を含む支出の総額や活動内容を案内し、公開済みの360度画像、間取り、改修状況、周辺の学校等を併せて示すことが有効と考えられる。設備への具体的な要望は、通常の修繕・空き住戸改修時の検討材料とする。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

全体考察④

4. コメントから考えられる施策の方向性

方向性① 対象世帯が情報に触れる際に、既存の案内を届ける

- HPには資格判定、物件、画像等の情報が既にある。限られた予算の中で、必要とする・対象となる世帯が利用する市町村の子育て・結婚・ひとり親支援窓口や保育施設等と連携し、結婚・出産・転居など住まいを考える時期に県営住宅の情報が届くような仕組み作りは有効と考えられる。
- 県公式LINEやSNS等、スマートフォンで必要な情報へ直接アクセスできる環境作りも考えられる。

方向性② 資格・設備・費用を、自分の暮らしに置き換えて確認できるようにする

- 案内について「申し込みできるのか」⇒「どの住宅が空いているのか」⇒「入居するにはいくら必要なのか」⇒「申し込みするためには何をすればいいのか」を一括して分かるようなフローチャートを示すことで入居基準が複雑な県営住宅への理解を促進したい。
- 既存のシミュレーターや360度画像の活用を促進することで、住居に対する疑問点や不安な点を解消できると、「給湯器・風呂釜がない」といった誤解の解消に繋げることができる。

方向性③ 暮らしの実態と管理の取組を伝え、入居前の不安を和らげる

- 住民層や近隣関係への不安から入居をためらう声がある。子育て世帯の入居体験や日常の暮らしを紹介し、見学や地域活動を通じて、県営住宅の雰囲気を確かめられる機会を設けることは有効かもしれない。
- 騒音・ごみ出し等の実態を確認し、生活ルールの共有や改善を進める。相談先や管理者の対応も具体的に示すことで、漠然としたイメージによる不安を和らげ、入居の検討につなげていきたい。

方向性④ 入居後も子育てを続けやすい管理・運営を検討する

- 生活ルールの分かりやすい共有、生活音の相談対応、子育て中の自治会・清掃活動の役割分担など、育児の負担に配慮した取組は入居者を増やす上で必要な取り組みの1つであると考えられる。
- 一部の住宅で情報提供や相談対応を実験的に試すことで、声を確認しながら改善を重ねることが考えられる。

© PoliPoli, Inc. All rights reserved

PoliPoli Gov

© PoliPoli, Inc. All rights reserved